

**日本食肉流通センター  
令和4年度第3回研修会**

**「激動する環境の中で変化  
する国内の食肉流通」**

～ 日本食肉流通センターの部分肉価格データを中心に  
各種データを加えて、食肉取引の変化を追う～

令和5年3月23日（木）

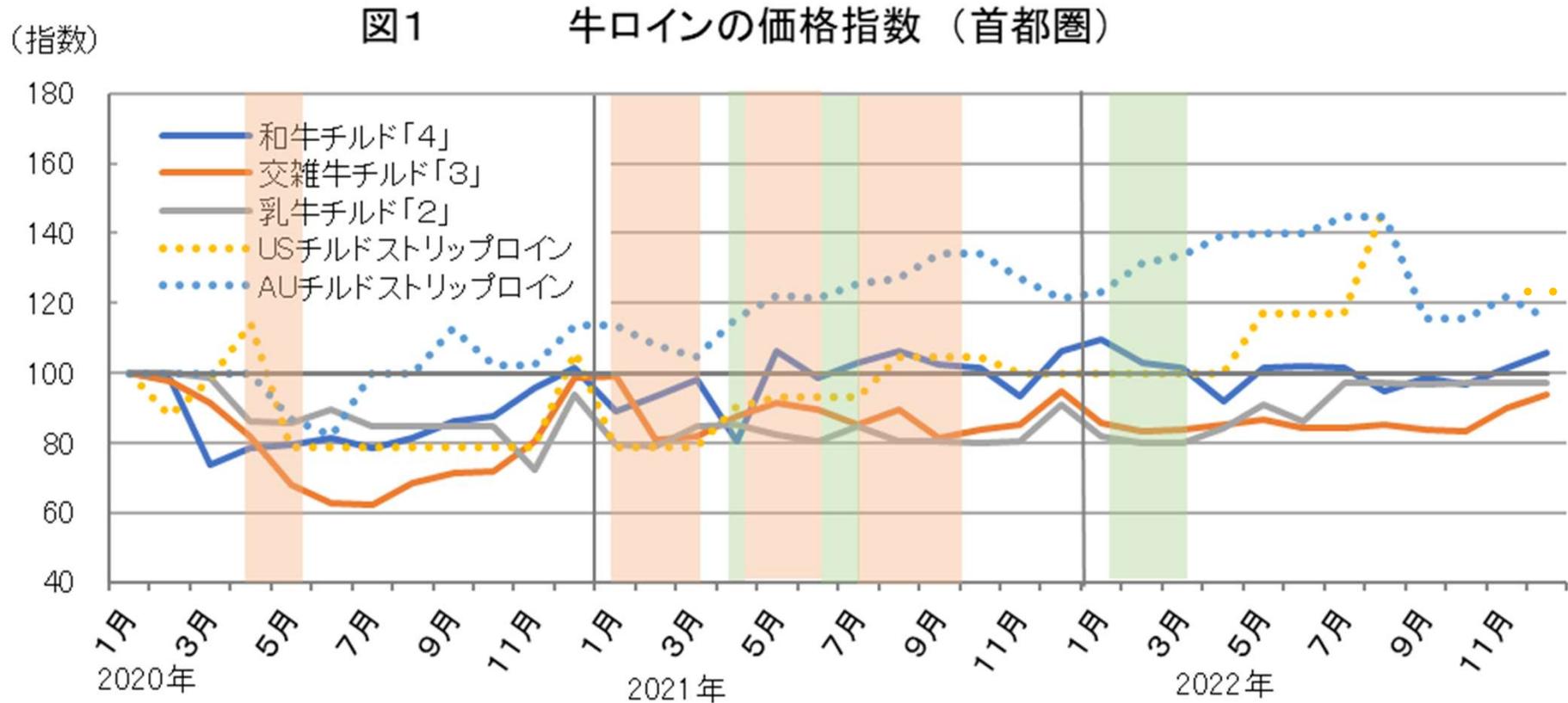
公益財団法人 日本食肉流通センター

情報部 審査役 安藤 松太郎

# 国内の食肉流通に影響を与えている主なできごと

- ① 新型コロナウイルス感染症
  - 国内での最初の感染者を確認 2020年 1月15日
  - 緊急事態宣言（1回目） 2020年 4月 7日
  - まん延防止等重点措置の終了 2022年 3月21日
  - 感染症法上の位置づけを5類に変更 2023年 5月 8日
  
- ② 輸入食肉の供給停滞 2020年～2021年
  
- ③ 穀物相場の上昇 2021年～
  
- ④ 国内物価の上昇 2022年～
  
- ⑤ ロシアによるウクライナ侵略 2022年 2月24日
  
- ⑥ 円安の進行 2022年 3月中旬～  
米ドル/円（3月上旬：115円 → 10月21日：151円）

# 1-1 牛部分肉の部位別価格の動向（ロイン）

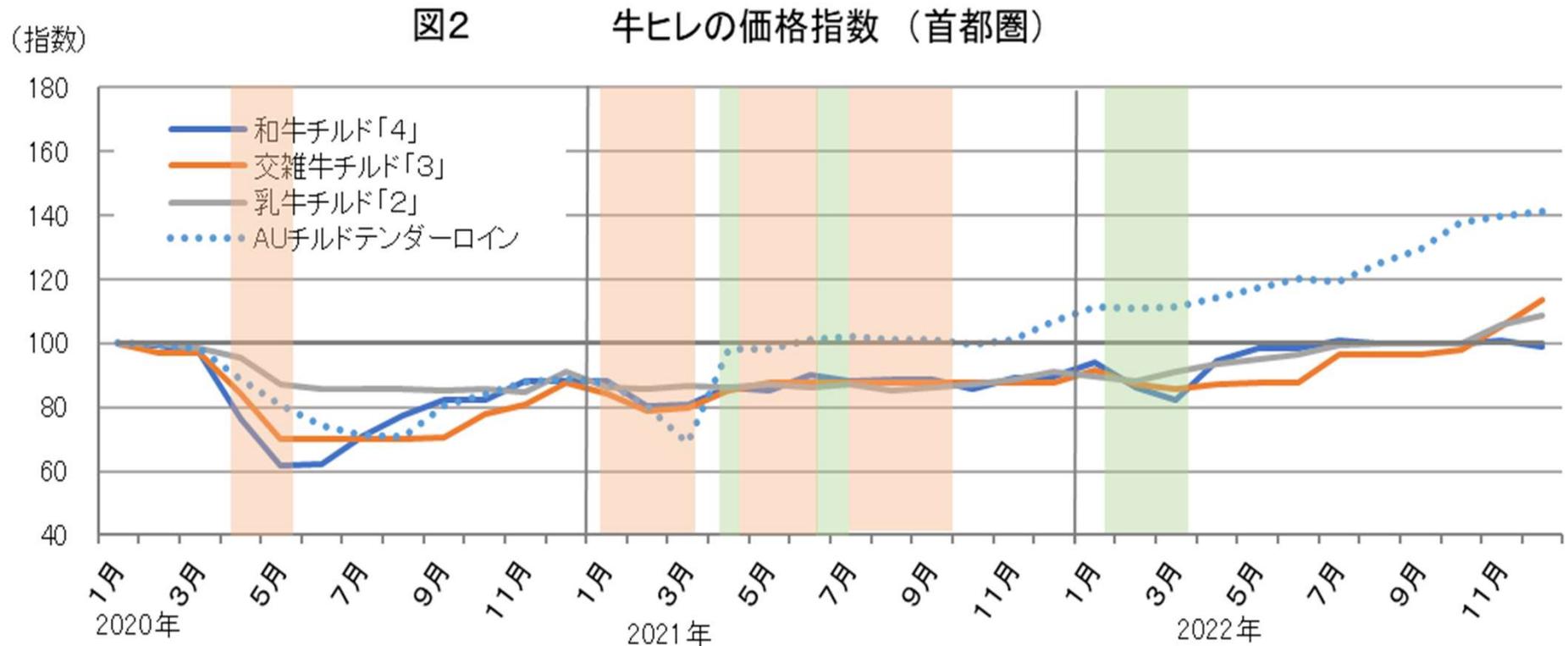


注1. 価格指数 = 各月の重量中央値 / 2020年1月の重量中央値 × 100

注2. グラフ背景の  は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間を示す。

- 国産ロインは、コロナ発生の影響によりどの畜種も低下。
- 和牛ロインは、その後緩やかに回復しコロナ以前の水準に戻る。
- 輸入ロインは、一時低下後、現地価格の高騰や円安により大幅に上昇。

## 1-2 牛部分肉の部位別価格の動向（ヒレ）



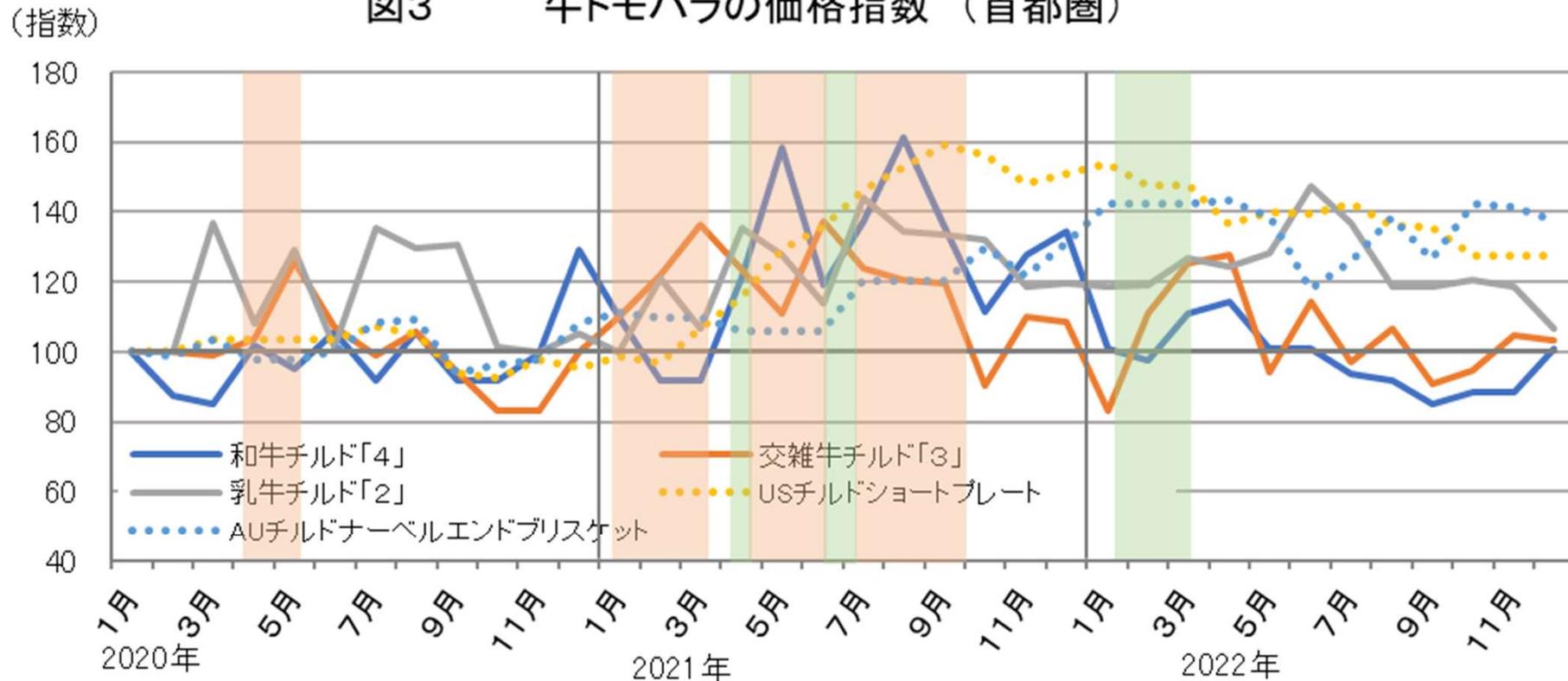
注1. 価格指数 = 各月の重量中央値 / 2020年1月の重量中央値 × 100

2. グラフ背景の  は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間を示す。

- 和牛ヒレは、ホテル等の需要が減少したことから大きく低下。
- コロナの行動制限解除により、和牛ヒレの需要が回復。これに合わせて、各畜種も上昇。
- 豪州産は、一時低下後、現地価格の高騰や円安により大幅に上昇。

# 1-3 牛部分肉の部位別価格の動向（トモバラ）

図3 牛トモバラの価格指数（首都圏）

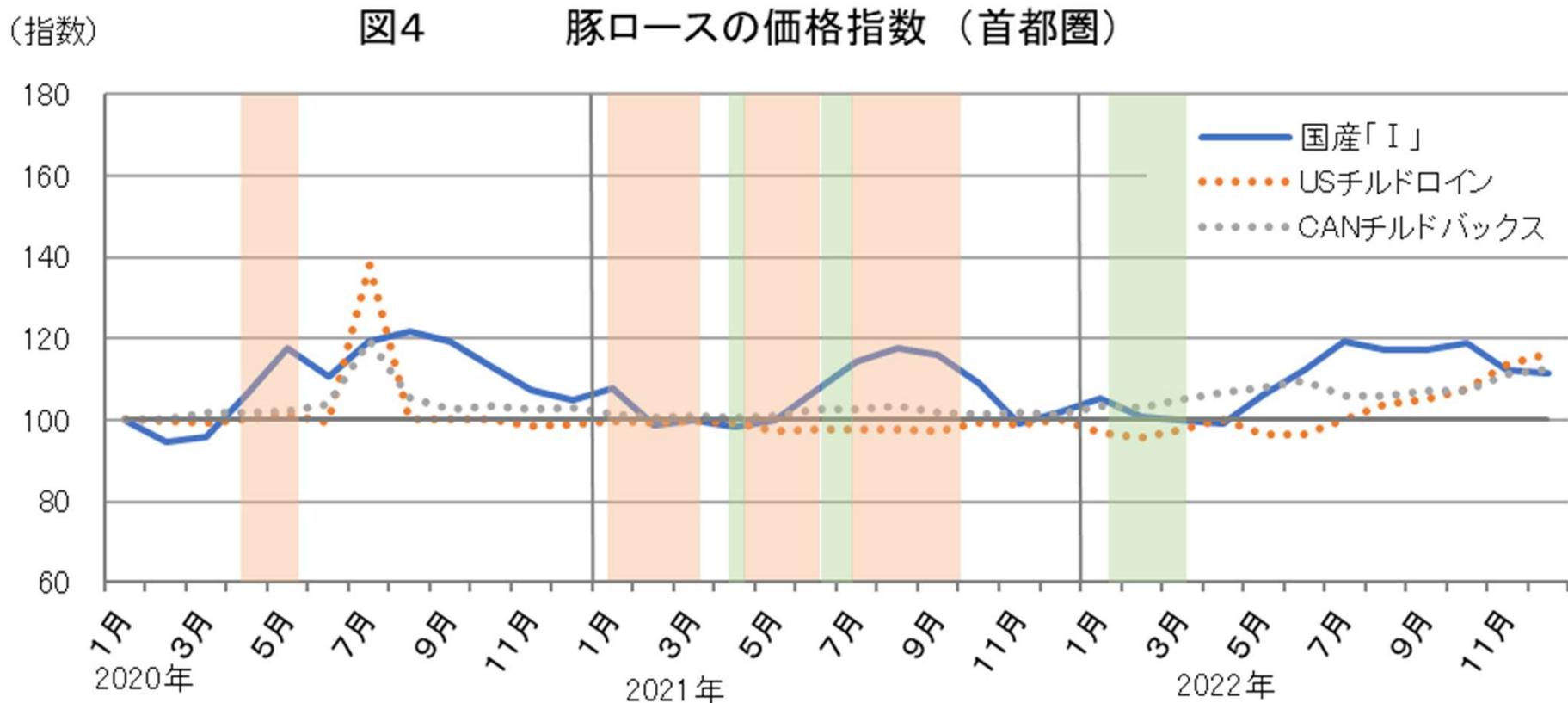


注1. 価格指数 = 各月の重量中央値 / 2020年1月の重量中央値 × 100

注2. グラフ背景の  は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間を示す。

- トモバラは、焼き材等として家庭内外での需要が根強く、コロナの影響下でも低下はほとんどみられず。
- 輸入トモバラの上昇に伴って、国産も上昇。

## 2-1 豚部分肉の部位別価格の動向（ロース）



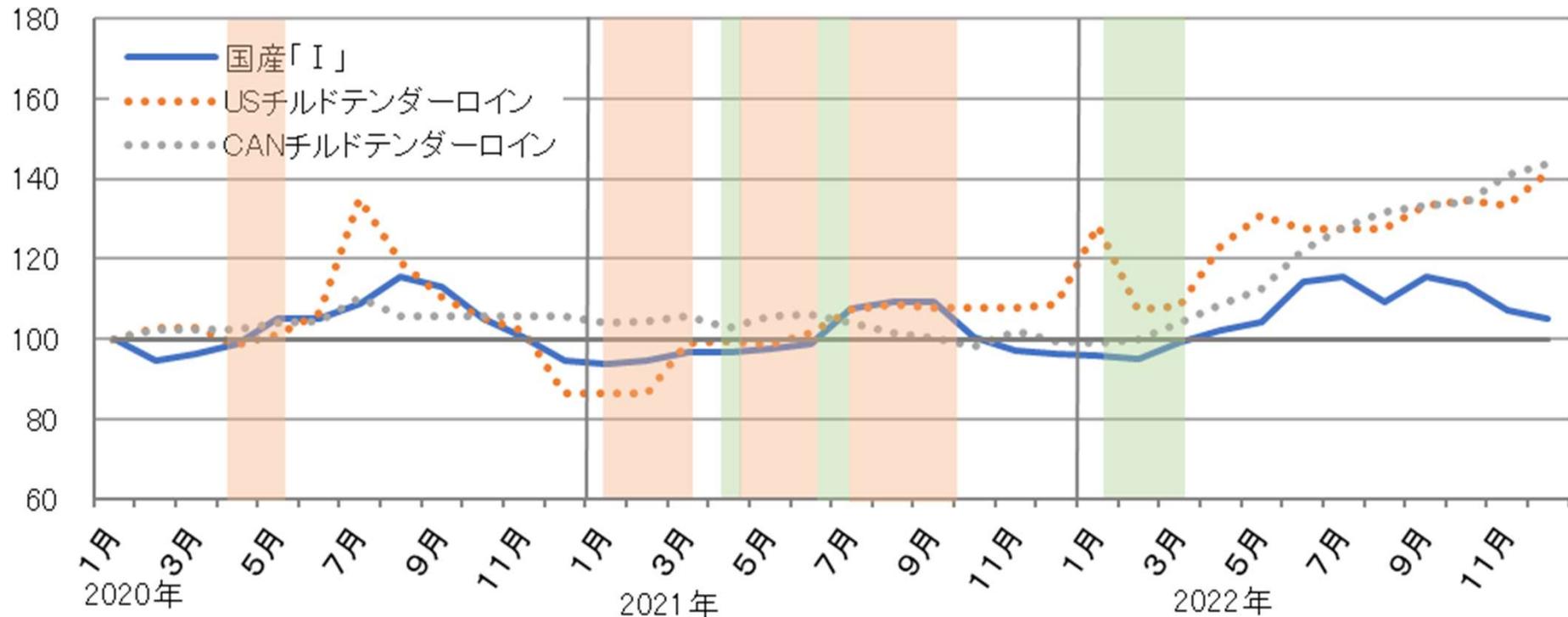
注1. 価格指数 = 各月の重量中央値 / 2020年1月の重量中央値 × 100

2. グラフ背景の  は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間を示す。

- 国産ロースは、コロナの影響で巣ごもり需要が旺盛になったことなどから、堅調に推移。
- 輸入ロースは、2020年夏には米国でのコロナ影響により食肉工場の稼働の低下等により一時的に上昇したものの、その後比較的安定して推移。

## 2-2 豚部分肉の部位別価格の動向（ヒレ）

(指数) 図5 豚ヒレの価格指数（首都圏）



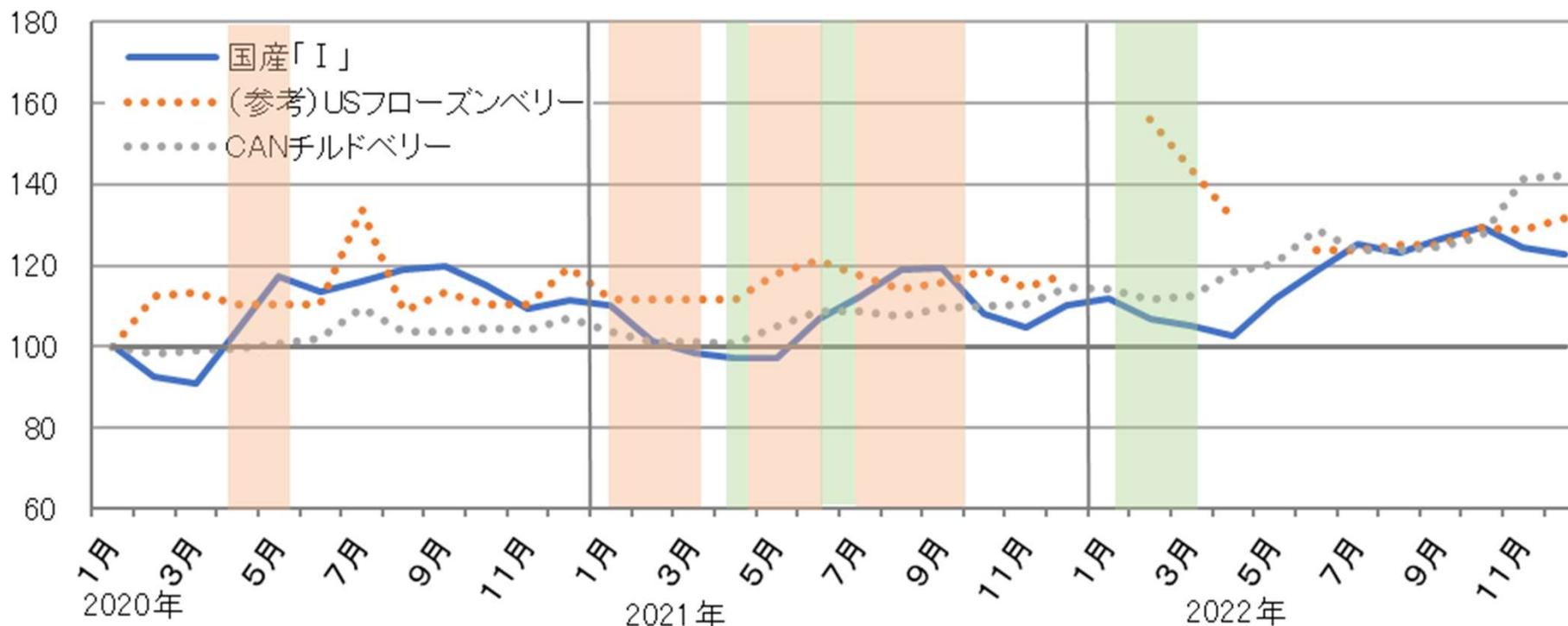
注1. 価格指数 = 各月の重量中央値 / 2020年1月の重量中央値 × 100

注2. グラフ背景の  は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間を示す。

- 国産ヒレは、コロナによる大きな影響はみられず、輸入ヒレとほぼ連動して推移。
- 輸入ヒレは、2022年3月からの円安の影響で上昇し高水準。

## 2-3 豚部分肉の部位別価格の動向（バラ）

(指数) 図6 豚バラの価格指数（首都圏）

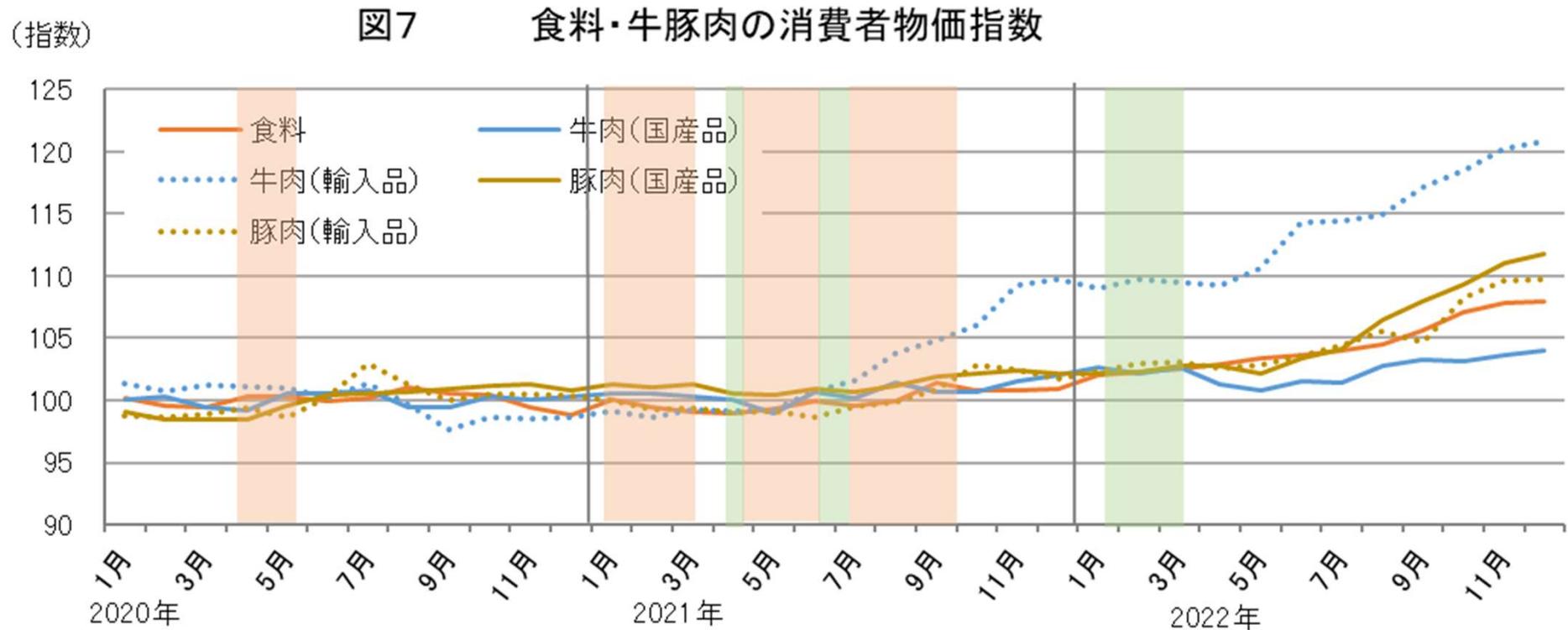


注1. 価格指数 = 各月の重量中央値 / 2020年1月の重量中央値 × 100

注2. グラフ背景の  は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間を示す。

- 国産バラは、輸入バラとの価格差縮小で引き合いが強い状態が続き、2021年半ばから上昇傾向。輸入バラの上昇もあって上昇し高水準。
- 輸入バラは、上昇傾向が続き、円安によりその傾向は顕著に。

## 3-1 小売の販売動向(小売価格)



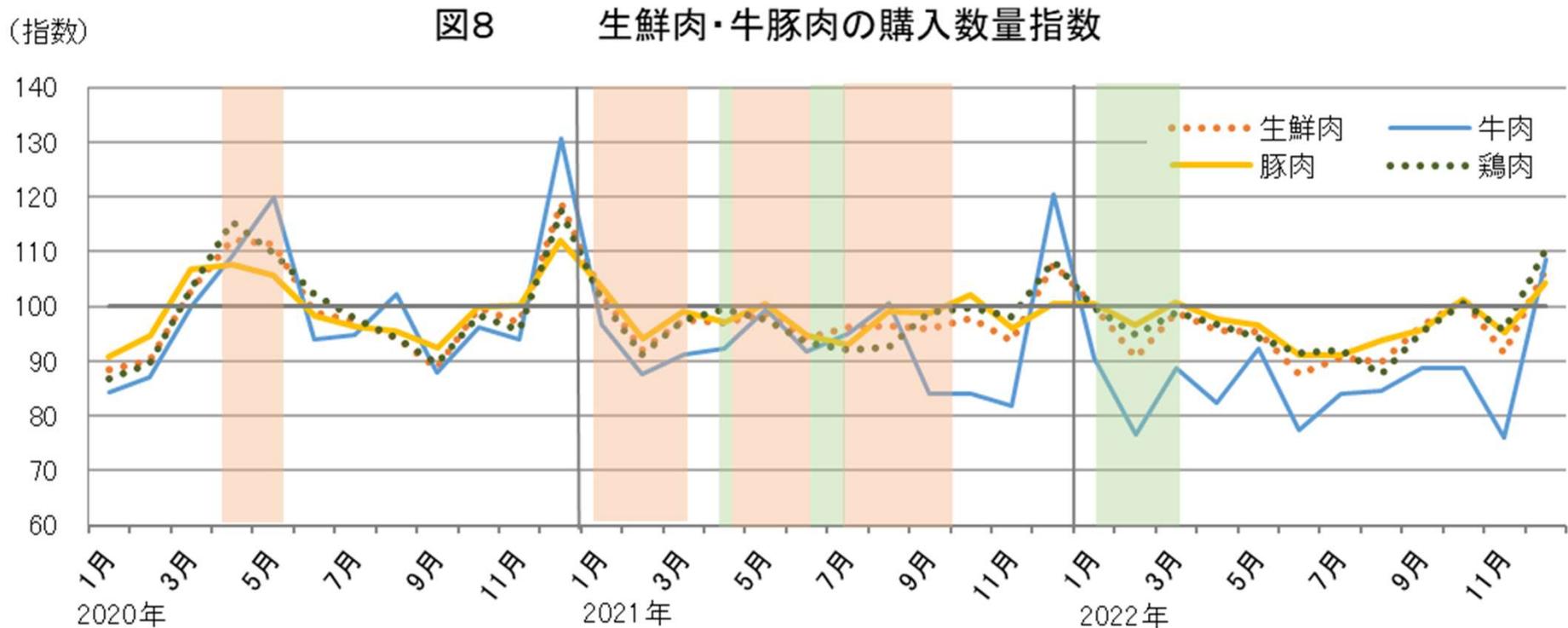
資料: 総務省「消費者物価指数」(全国)より作成。

注1. 指数は、2020年平均を基準(100)としている。

2. グラフ背景の  は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間を示す。

- 穀物、原油等の国際相場の動きに連動するように食料の物価指数は2021年6月ごろから上昇し、食肉も種類を問わず上昇。
- 輸入牛肉は、中国において米国産等の牛肉需要が増加したことから、他の食肉より大きく上昇。

## 3-2 小売の販売動向(1世帯当たり食肉購入数量)



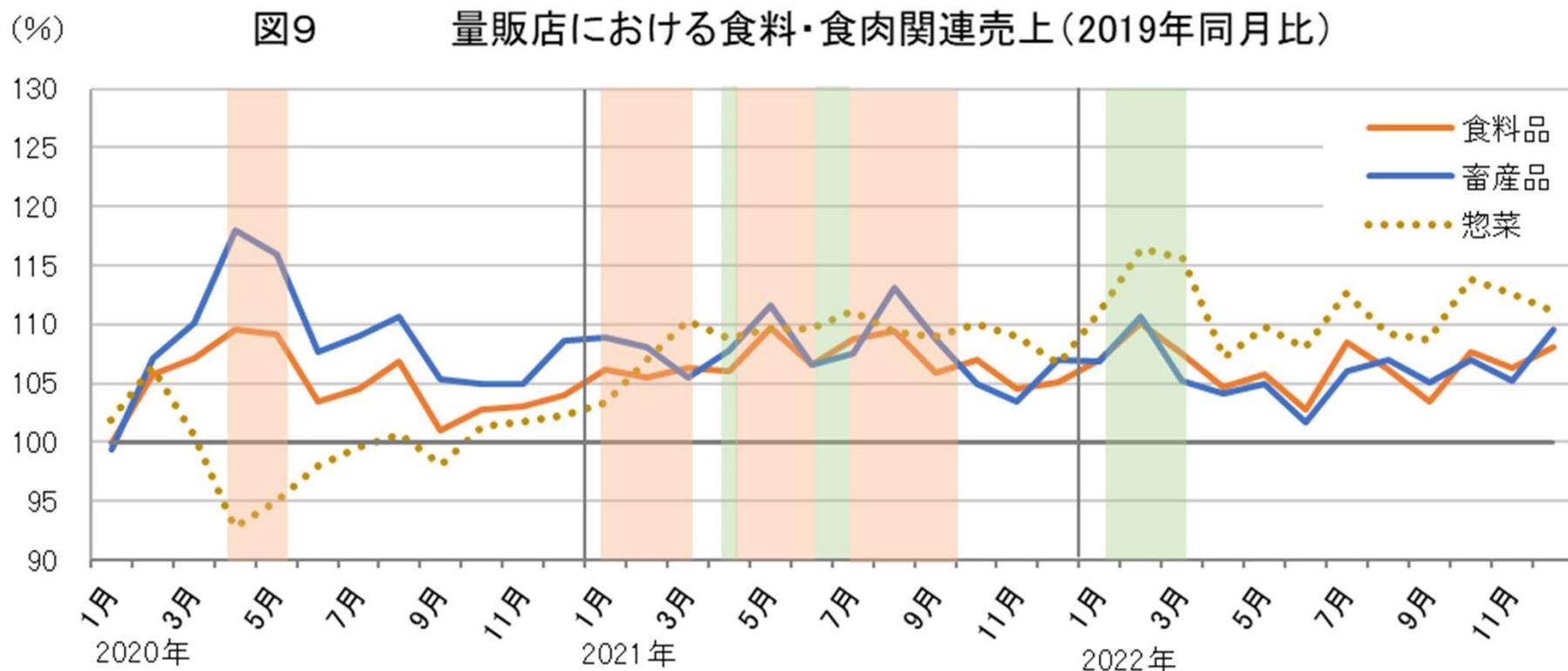
資料: 総務省「家計調査」の二人以上の世帯のデータより作成。

注1. 購入数量指数 = 各月の購入数量 / 2020年平均購入数量 × 100

2. グラフ背景の  は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間を示す。

- 牛肉は、輸入牛肉の物価指数が上がり始めた2021年半ば以降、低下傾向が顕著。2022年の指数平均は86.6と前年から7.2ポイントも低下し、家庭の牛肉購入数量は大きく減少。
- 豚肉及び鶏肉は、2022年4月以降、100を下回り低下傾向で推移し、生鮮肉全体の2022年の平均指数は、95.4と前年から2.1ポイント低下。

### 3-3 小売の販売動向(量販店における売上)



資料: 日本チェーンストア協会の販売統計より作成。

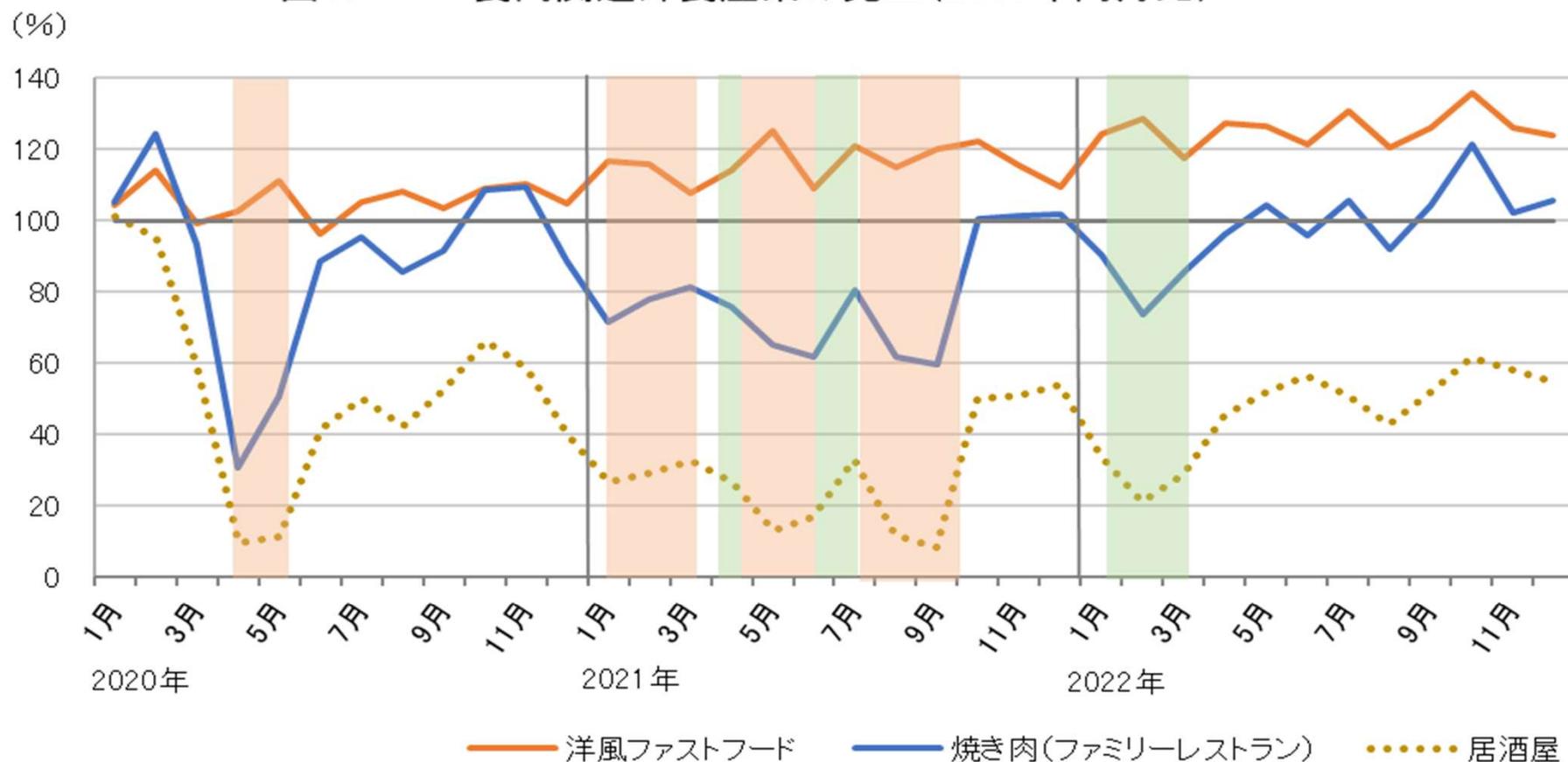
注1. 店舗の新規開店・や閉店の影響を排除するため既存店舗で前年同期比(店舗調整後)を用いた。

2. グラフ背景の  は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間を示す。

- 畜産品の売上は、コロナの影響によって内食需要が拡大し、食料品全体を大きく上回って推移。その後、食料品の比との差は縮小。
- 惣菜の売上は、2022年のまん延防止等重点措置期間に大きく伸び、その後も食料品と比べ好調に推移。

## 4 業務用食肉の販売動向

図10 食肉関連外食産業の売上(2019年同月比)



資料: 日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より作成。

注1. 協会会員を対象とし、新規店の売上も含めた全店に関する調査である。

2. グラフ背景の  は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間を示す。

- 「焼き肉」はコロナ前の水準まで回復。「居酒屋」は厳しい状況。
- 「洋風ファストフード」はテイクアウトが好調で、コロナ以前を超えて全店売上は増加傾向。

## 5-1 牛肉需要(推定出回り量)の動向

表1 牛肉の推定出回り量

単位：トン

	2020年		2021年		2022年	
	推定出回り量	(前年比)	推定出回り量	(前年比)	推定出回り量	(前年比)
牛肉全体	923,980	( 98.1% )	901,760	( 97.6% )	874,916	( 97.0% )
うち国産品	329,776	( 102.2% )	325,212	( 98.6% )	337,505	( 103.8% )
うち輸入品	594,205	( 96.0% )	576,548	( 97.0% )	537,410	( 93.2% )

資料：農畜産業振興機構「牛肉需給表」より作成。

- 牛肉の国内需要量は、前年を下回る状況が続く。外食需要が落ち込んだことや輸入牛肉の現地価格の上昇などが大きな要因。
- 国産は、2022年は輸入牛肉の現地価格高に加え円安などにより輸入牛肉との価格差が縮小していることから、牛肉需要が輸入から国産へシフトする動きもあり、前年比103.8%と増加。
- 一方、輸入牛肉は前年比93.2%と前年を下回る。

## 5-2 豚肉需要(推定出回り量)の動向

表 2 豚肉の推定出回り量

単位：トン

	2020年		2021年		2022年	
	推定出回り量	(前年比)	推定出回り量	(前年比)	推定出回り量	(前年比)
豚肉全体	1,817,830	( 100.4% )	1,843,478	( 101.4% )	1,843,496	( 100.0% )
うち国産品	913,165	( 102.3% )	918,645	( 100.6% )	907,034	( 98.7% )
うち輸入品	904,665	( 98.6% )	924,833	( 102.2% )	936,462	( 101.3% )

資料：農畜産業振興機構「豚肉需給表」より作成。

- 豚肉の需要量は、コロナの影響により内食需要が伸び、2020年から堅調に推移したものの、2022年には落ち着き前年並み。
- 国産は、輸入豚肉の代替需要もあり、2020年と2021年は前年を上回って推移。2022年に入ると旺盛な需要も落ち着き、飼料高など生産面の制約もあり前年比98.7%。
- 輸入は、2021年には増加傾向に転じ、2022年の需要量は、現地価格の上昇や入船遅れなどの影響が続くものの、前年比101.3%。

## 6-1 牛肉輸入の動向(輸入数量)

表3 牛肉の輸入数量

単位:トン

	2020年		2021年		2022年	
	輸入数量	(前年比)	輸入数量	(前年比)	輸入数量	(前年比)
牛肉全体	600,326	( 97.5% )	584,519	( 97.4% )	559,912	( 95.8% )
うち生鮮・冷蔵	261,309	( 95.2% )	263,648	( 100.9% )	216,986	( 82.3% )
うち冷凍	338,636	( 99.5% )	320,621	( 94.7% )	342,591	( 106.9% )

資料:農畜産業振興機構「牛肉の輸入動向」より作成。

注:部分肉ベースである。

- 牛肉の輸入数量は、コロナの影響による外食等の需要の減少を反映して2020年から減少に転じ、2022年の輸入数量は前年比95.8%と減少傾向。
- 牛肉調達の停滞や食肉工場の稼働低下、現地価格の高騰に加えて急速な円安による値上げの影響が、輸入環境悪化に拍車をかける状況。
- 特に、生鮮・冷蔵は、この影響を強く受け、前年比82.3%と大きく減少する一方で、その減少を補うかたちで冷凍は106.9%と増加。

## 6-2 牛肉輸入の動向(輸入価格)

表4 牛肉の部位別輸入価格

単位:円/kg

	2020年		2021年		2022年	
	輸入価格	(前年比)	輸入価格	(前年比)	輸入価格	(前年比)
生鮮・冷蔵						
うちロイン	1,377	( 90.8% )	1,573	( 114.2% )	1,951	( 124.1% )
うちかた・うで・もも	801	( 101.3% )	924	( 115.3% )	1,114	( 120.6% )
うちばら	626	( 98.0% )	758	( 121.0% )	880	( 116.2% )
冷凍						
うちロイン	642	( 93.3% )	800	( 124.6% )	1,123	( 140.3% )
うちかた・うで・もも	595	( 100.9% )	665	( 111.7% )	885	( 133.2% )
うちばら	380	( 92.0% )	491	( 129.3% )	682	( 138.8% )

資料:財務省「貿易統計」より作成。

- 輸入牛肉は、コロナ発生後に現地価格高となり、2022年3月からは円安でさらに調達価格は引き上げ。主要部位の平均輸入価格は、2021年は前年比12~29%の上昇、2022年にはさらに前年比16~40%の上昇。
- 食肉事業者からは、この調達価格の上昇に対し「新たな輸入先国を検討している。」との声や「代替として国産の乳用種や交雑牛の引き合いが強くなっている。」との声。

## 7 豚肉輸入の動向(輸入数量)

表5 豚肉の輸入数量

単位：トン

	2020年		2021年		2022年	
	輸入数量	(前年比)	輸入数量	(前年比)	輸入数量	(前年比)
豚肉全体	891,093	( 93.0% )	902,612	( 101.3% )	976,199	( 108.2% )
うち冷蔵	415,992	( 102.2% )	419,989	( 101.0% )	403,466	( 96.1% )
うち冷凍	475,061	( 86.2% )	482,608	( 101.6% )	572,693	( 118.7% )

資料：農畜産業振興機構「豚肉の輸入動向」より作成。

注：部分肉ベースである。

- 豚肉の輸入数量は、2020年には、コロナの影響で内食需要が旺盛となり冷蔵が増加したものの、外食や加工品向け需要が多い冷凍は大きく減少し、輸入数量全体は前年比93.0%と減少。
- 2021年の輸入数量は前年をやや上回るが、2022年8月までは、冷蔵が減少する一方、冷凍が大きく増加したため、輸入数量全体は大きく増加。
- 輸出先国は、日本にとって主要な輸入相手国である米国からの輸入が伸び悩む中で、冷蔵ではメキシコ、冷凍ではスペインからの輸入量が増加。

## 8-1 牛肉輸出の動向（輸出数量）

表6 牛肉の輸出数量

単位:トン

	2020年		2021年		2022年	
	輸出数量	(前年比)	輸出数量	(前年比)	輸出数量	(前年比)
牛肉全体	4,844	( 111.6% )	7,877	( 162.6% )	7,453	( 94.6% )
うちロイン	2,590	( 97.2% )	4,547	( 175.6% )	4,141	( 91.1% )
うちロイン以外	2,254	( 97.2% )	3,330	( 147.7% )	3,311	( 99.4% )

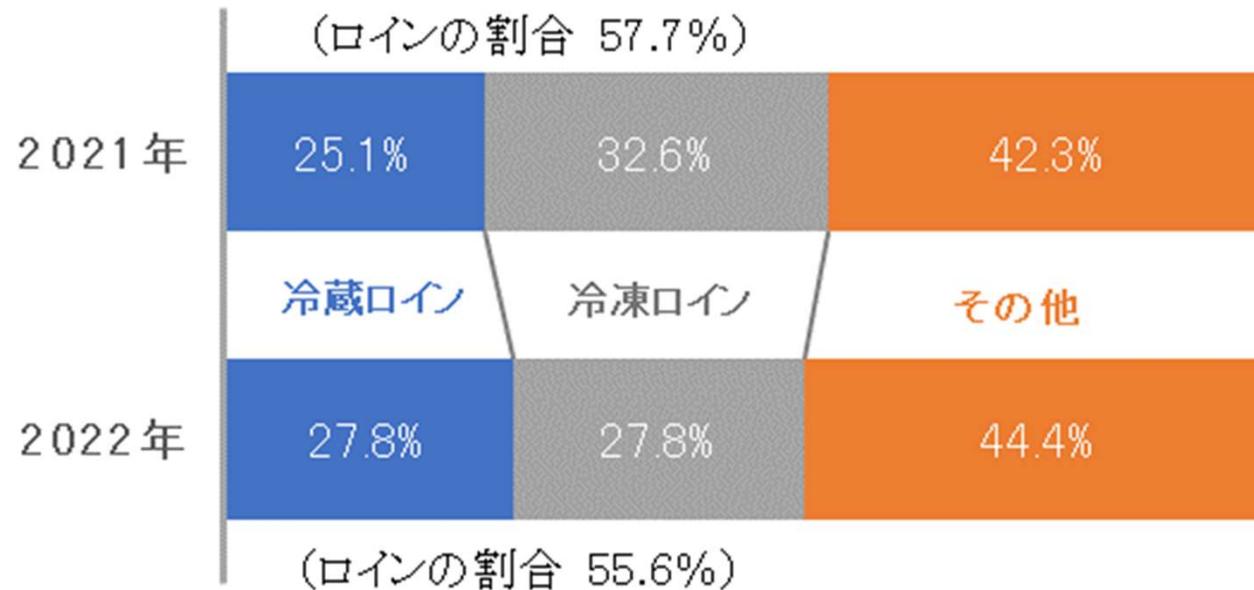
資料:財務省「貿易統計」より作成。

注:部分肉ベースである。

- 牛肉の輸出は、2020年から2021年にかけて米国やカンボジア向けを中心に大きく伸ばしてきたが、2022年はカンボジア向けが激減し、輸出数量全体は前年比94.6%と減少。
- ロインの輸出は、2021年には前年比175.6%と大きく伸びたが、2022年は前年比91.1%と大きく減少し、ロイン以外よりも大きな減少。

## 8-2 牛肉輸出の動向（輸出の構成割合）

図11 牛肉輸出数量の構成割合

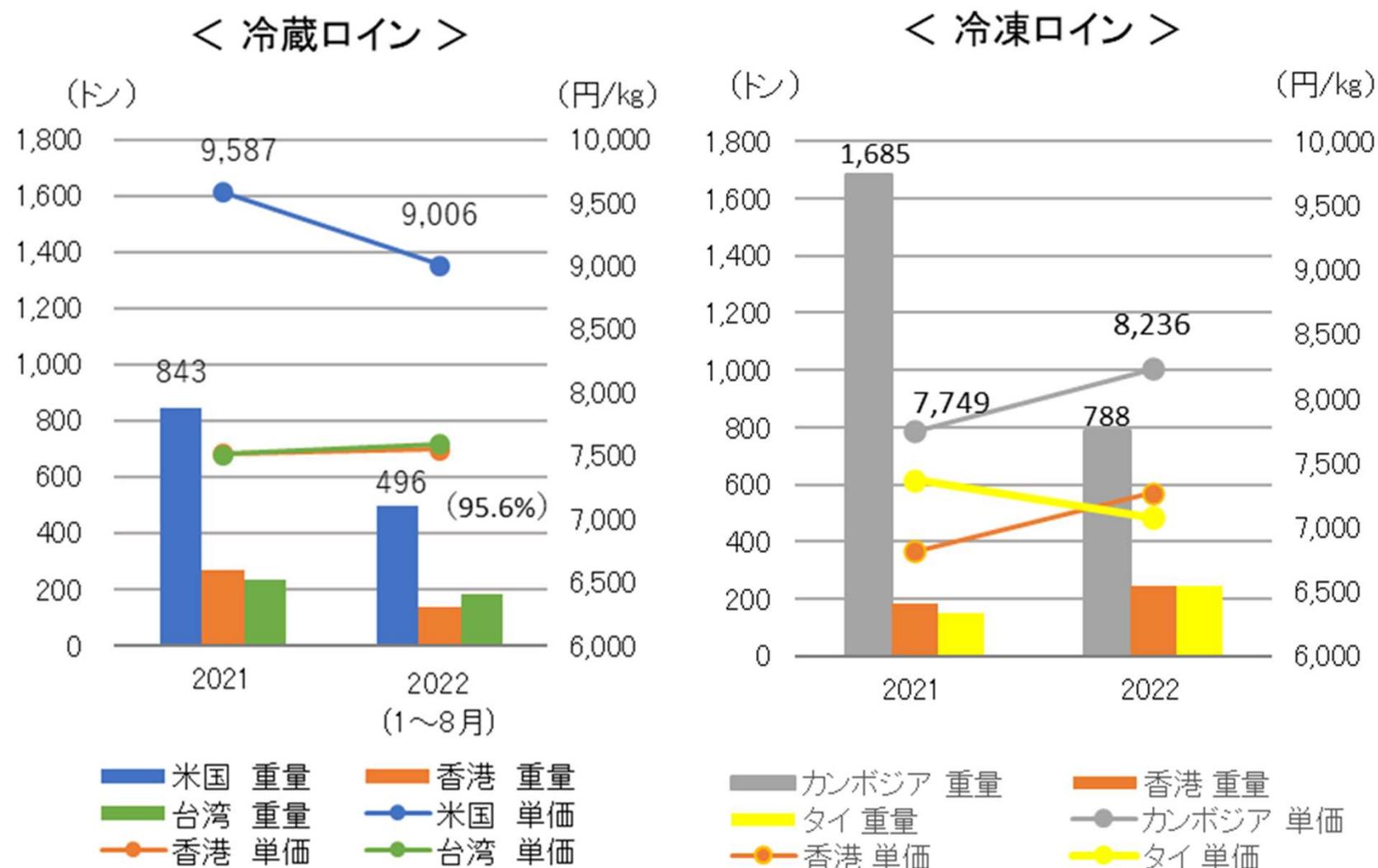


資料: 財務省「貿易統計」より作成。

- 牛肉輸出数量に占めるロインの割合は6割弱と大きなシェア。
- ロインは、国内ではコロナの感染拡大が始まると外食需要が減り、価格は大きく低下した後、ゆっくりと回復。
- 卸売業者からは、「輸出がなかったら国内ロインはどうなっていたことか」との声。

## 8-3 牛肉輸出の動向（ロイン）

図12 ロインの輸出重量と取引単価（2022年輸出上位3か国）



資料：財務省「貿易統計」より作成。

## ◇ 食肉業者の対応

- ・ 販売の努力
- ・ 輸出
- ・ ブランド化
- ・ 環境変化への対応

# レポート・部分肉価格情報専門チャンネルのご案内

- 当センターのホームページで、定期的に食肉に関するレポートを公表。

◇最近の食肉をめぐる状況 令和5年（2023）2月15日公表

◇食肉業界の販売動向について 令和5年（2023）2月7日公表 等

<https://www.piif.jmtc.or.jp/report/>



- 部分肉価格情報専門チャンネル

『市況速報』 各地域をクリックしてご覧ください

※表項目の部分肉について、部位ごとの取引価格と取引重量の情報がご覧になれます

項目	公表のサイクル/公表日	地域
豚カット肉「1」	日報（月～金曜）	首都圏 近畿圏
豚カット肉「1」・（週間）	週報（火曜）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州
和牛チルド「4」	週報（火曜）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州
乳牛チルド「2」	週報（水曜）	首都圏 近畿圏 九州
交雑牛チルド「3」	週報（水曜）	首都圏 近畿圏 九州
輸入牛肉	半月報（3日/18日）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州
輸入豚肉	半月報（3日/18日）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州

[//www.jmtc.or.jp/](https://www.jmtc.or.jp/)

